

## 第10回秋季日本メダカ品評会自由展示部門の紹介

自由展示部門とは、『メダカを美しく・楽しく魅せる』ことを趣旨として、出品者自身がメダカ及び容器・装飾品等を用意・搬入し、自由に飾り付けをして展示する部門です。そのため、『メダカだけを評価するのではなく、魅せ方や飾り付けも合わせた一体のものとして評価する』という意図から、床の間を想定してメダカの世界観を表現し、メダカ文化を発信するという役割を担っています。

この度、本品評会で評価の高かった2作品について、出品者の方に作品紹介をしていただきました。

自由展示部門 一席 「溪谷」 広島県 木下 富美代 様



### 【作品紹介】

名前の理由は、石組みの岩っぼい感じから。一枚一枚、会場で石積み作業を行った。石の間に植物をはさんでいるのは、隙間を隠す目的とメダカが突っ込んでいかない様に穴を防ぐ目的から。石の隙間や上に配置された植物は、苔や水草、山野草、観葉植物など。いずれも根等が水中に入っても大丈夫なもの。作品右手で釣りをしているのは河童。人間より動物のようが作品の雰囲気マッチしていたから。現実というより非現実的な世界を表現している。水槽に入っているメダカの色は、背景が黒のため、朱赤もしくは体外光を想定していたが、実際

に泳がせてみると、朱赤メダカがバシッと合った。左手の植物は高さを出して山をイメージしている。

自由展示部門 二席 「笑家(しょうや)

広島県 竹岡 広文 様



### 【作品紹介】

掛け軸も合わせて一つの作品。左手の水槽は家をイメージしたもの。家の右から水槽を覗くと、奥に丸く切り抜きが見えるこれは、月をイメージしている。家の左から水槽を覗くと、奥が鏡になっているため、見ている自分の顔が映り、つい「にこっ」と笑顔になる仕掛けがあります。このことから作品名を名付けた。家の左手の灯籠は添配であり、古風な雰囲気を演出している。山野草を飾ることで、メダカを含めて日本文化を発信している。